

「びん」を戻して地球にやさしい暮らし。

“リターナブルびん”からはじめるリユース生活。

リターナブルびんとは、何度も繰り返し使えるよう規格を統一したびんのこと。この規格のおかげで、びんの回収、分別のシステムがとてスムーズになりました。大事に扱えば35回も使用が可能なリターナブルびん。もし、リターナブルびんを1年間に3回リユース(再使用)すると、12年間使える計算になります。リユースをより身近にするために、「超軽量リターナブルびん」の開発、導入が進んでいます。

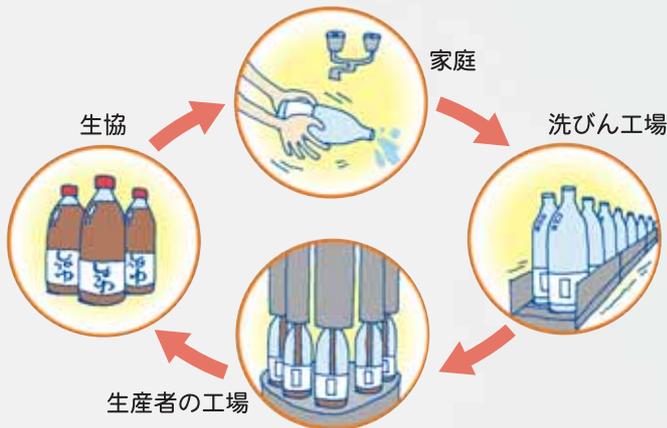


このマークが目印。

このマークが、「リユースびん」の目印です。ラベルやびんに、このマークがあるものはすべてお戻しくささい。

日本ガラスびん協会が「規格統一びん」と認証しているマークです。

知ってください、リユースのこと。

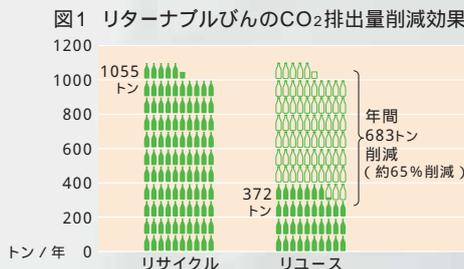


牛乳びん、ビールびん、一升びんなど、日本では昔から、びんや容器を何度も繰り返し使うというシステムがきちんと根づいていました。しかし、1995年にできた容器包装リサイクル法により、リサイクルに必要な費用の8割(回収・分別・保管にかかる費用)を自治体が負担することに。その結果、メーカーは手間とお金のかかるリユースをしがらなくなってしまったのです。使い捨てびんを資源ごみに出し、溶かしてもう一度新しいびんを作ること、洗浄してリユースすること。地球環境への負荷を考えたとき、リユースのほうがずっと簡単でムダのないシステムだと思いませんか？

もっと地球のために。 「びん」を戻して、CO₂削減のお手伝い。

リユースとリサイクルの違いをCO₂排出量で比べてみると…

「まだ使えるものを捨てるのはもったいないけれど、リサイクルしているから大丈夫かな…」と、使い終わったびんを自治体の「資源ごみ」として出していないか？ 図1は、びん再使用ネットワークの生協が、びんをリユースした場合と、一度しか使わずにリサイクルした場合のCO₂排出量を比較したグラフです。リサイクルした場合のCO₂排出量は、リユース(4回使用の回収率75%)の約3倍にもなってしまいます。



「ガラスびんLCAプログラム」によるリユースとリサイクルの比較データ(1994年4月/日本ガラスびん協会)に基づき、びん再使用ネットワークの500mlRびんの年間供給本数300万本で試算。

リターナブルびんとPETボトルの違いをCO₂排出量で比べてみると…



図2 容器別に見たCO₂排出量の比較

「LCA手法による容器間比較報告書 改訂版」(2001年8月)により作成。

今では、PETボトルなど、軽くて便利な容器が当たり前のように普及しています。図2は、資源の採取から製造、流通、使用、リサイクル、リユース、廃棄まで、製品のライフサイクルにわたる環境負荷を、総合的に分析・評価する手法(LCA)によって、CO₂排出量を比較したものです。リターナブルびん(5回使用の回収率80%)におけるCO₂排出量は、PETボトルの約2分の1に抑えられることがわかります。

製作:びん再使用ネットワーク

びん再使用ネットワークはRびんの規格統一を追求し、社会普及を進めるため1994年に設立されました。生活クラブ連合会、東都生協、バルシステム連合会、グリーンコープ連合、生協連合会きらり、新潟県総合生協が参加しています。

<http://www.alpha-net.ne.jp/users2/binnet>